

6 4 2 号 東部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県東部家畜保健衛生所

西部地域畜産経営技術推進指導協議会
富山県西部家畜保健衛生所 2022.11.10

国内養鶏場で早くも高病原性 鳥インフルエンザが発生 ～防疫演習で連携確認～	1
高病原性鳥インフルエンザ発生状況	2
家畜伝染病発生に備え防疫演習を 通じて連携強化	3
☆クロストリジウム属菌による感染症について ...	3
第12回全国和牛能力共進会(鹿児島全共) が開催されました	4

令和4年度畜産優良施設等県外視察研修会 を開催	5
防疫情報	6
手数料の電子納付ができるように なりました クレジットカードやPay-easyにより 手数料納付が可能に	6
富山県畜産共進会(和牛子牛の部) 開催される	6

国内養鶏場で早くも高病原性鳥インフルエンザが発生 ～防疫演習で連携確認～



県防疫演習

県は、10月5日に令和4年度富山県家畜伝染病防疫演習を、10月21日および10月28日にそれぞれ南砺市、上市町と共催の防疫演習を開催しました。

これらの演習は、高病原性鳥インフルエンザをはじめとする家畜伝染病が県内畜産農場で発生した際に、迅速かつ的確な防疫措置を講じることができるよう、防疫体制と市町村等の関係機関との連携・協力体制の確認を目的として開催しました。

実技訓練も実施し、より実効性の高い防疫演習を行いました(関連記事3ページ)。

(東部家保防疫課 水木係長)

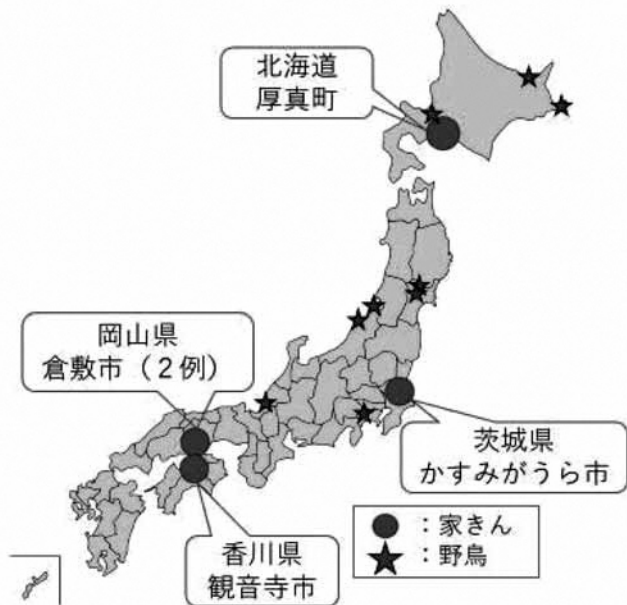
高病原性鳥インフルエンザ発生状況

10月28日、岡山県倉敷市の採卵鶏約17万羽及び北海道勇払郡厚真町の肉用鶏約17万羽を飼養する養鶏場において、今シーズン初めて家きんにおける高病原性鳥インフルエンザ（以下HPAI）の発生が確認されました。国内の養鶏場で10月に発生したことはなく、これまでで最も早い時期での発生となりました。その後も発生が続き11月4日までに5例の発生が確認されています（関連記事 6 ページ）。

R4. 11. 4 現在

国内の野鳥においても、例年より早い9月29日に神奈川県伊勢原市で国内1例目のHPAIが確認され、11月4日までに5道県で9事例が確認されています。ヨーロッパや北米大陸では、夏季においても家きん飼養農場でHPAIの発生確認が続いており、韓国では10月17日以降、家きん飼養農場でHPAIの発生が3農場で確認されるなど、多くの国で発生しています。

10月29日には農林水産省の食料・農業・農村政策審議会家畜衛生部会第79回家きん疾病小委員会が開催され、発生した養鶏場の現地調査結果の概要が公表されました。国内1例目の岡山県の養鶏場は山間の谷沿いにあり、農場周辺には複数のため池や農場を縦断する沢が存在し、農場近くのため池にはヒドリガモなど



国内における高病原性鳥インフルエンザ発生状況

約300羽のカモ類が確認され、国内2例目の北海道の養鶏場においても、農場周辺には複数のため池があり、カモ類やハクチョウ類が100羽余り確認されていました。

今回調査結果が公表された3例は、昨シーズンと同様、農場近隣にため池等の水場が確認されています。水場周辺には、飛来した野鳥が持ち込んだウイルスの量が環境中で高まっていることが想定されることから、特に、野生鳥獣が近づく水場近くにある養鶏場については、最大限の警戒をするとともに、全ての養鶏場の皆様におかれましては、鶏舎周囲への定期的な消石灰散布、出入りする車両や関係者の消毒の再徹底、防鳥ネットや鶏舎の破損カ所等の点検・修理等、飼養衛生管理の徹底を改めてお願いします。

こんな症状を確認したら、出荷・移動の自粛、速やかな家畜保健衛生所への連絡を！！

- ① 同一の家きん舎内において、1日の死亡率が当日から遡って21日間における平均の死亡率の2倍になっている場合
- ② 鶏冠、肉垂等のチアノーゼ、沈うつ、産卵率の低下等の症状を呈している場合
- ③ 5羽以上がまとまって死亡又はまとまってうずくまっている場合



沈うつ症状（飼養衛生管理基準ハンドブックより）

（東部家保防疫課 柿澤係長）

家畜伝染病発生に備え防疫演習を通じて連携強化

高病原性鳥インフルエンザ (HPAI) は、近年、家きん農場での発生が毎冬確認されています。本県でも令和3年1月に小矢部市の養鶏場で発生があり、多くの関係機関の協力の下、防疫対応が行われました。今年度も既に国内養鶏場で5例の発生(11月4日現在)が認められ、野鳥での感染事例も相次いで確認されていることから、本病の発生リスクが極めて高い状況となっています(関連記事2、6ページ)。

県域防疫演習(10月5日)では、座学において昨年の小矢部市での発生を踏まえて見直した防疫体制を共有し、実技訓練においては防疫作業の連絡から作業従事、解散までの一連の流れを確認しました。

また、市町村共催による防疫演習は、今年度、南砺市(10月21日)と上市町(10月28日)で実施しました。上市町の演習では、座学で町内の養鶏場でHPAIが発生したことを想定し、連絡や防疫体制を具体的に確認しました。また、実技訓練では、実際に集合施設として利用予定の体育館で、町が担当する集合施設運営補助業務について、一つ一つ作業の内容を確認しました。

今後、11月には、家畜伝染病発生時に最大の動員協力を得る各農林振興センター(富山、新川、高岡、砺波)と個々に防疫演習を開催し、万一の家畜伝染病発生時の防疫対応について情報共有と体制の確認を行う予定です。

HPAI等の家畜伝染病発生時には、被害を最小限とするため、迅速かつ的確な防疫対応が重要となります。今シーズンも既にHPAI発生リスクが極めて高い状況となっています。緊張感を関係機関と共有し、発生予防対策の強化と強固な防疫体制構築に努めたいと思います。



座学(県防疫演習)



実技訓練(上市町防疫演習)



実技訓練(南砺市防疫演習)

(東部家保防疫課 水木係長)

クロストリジウム属菌による感染症について

クロストリジウム属菌による感染症には様々なものがありますが、農家の皆さまにとってなじみがあるのは、クロストリジウム・パーフリンゲンスという菌種が原因となる壊死性腸炎が代表的かと思われます。本疾病を「クロスト」と呼ぶ方々も、もしかしたら多いかもしれません。

さて、このクロストリジウム属菌について簡単に特徴をご説明します。土壌や河川、海洋の泥に広く分布しているといわれる嫌気性有芽胞菌(酸素の存在下で発育が阻害され、外界悪条件下では菌細胞内の重要な構造を芽胞という構造物で守る細菌)であり、一部の菌種は動物、ヒトの腸管内で正常細菌叢の一部として生息しています。現在までに約150菌種が知られていますが、中でも獣医学上問題となるのは以下の疾病となります。

<クロストリジウム属菌による主な感染症> ※R4年度家畜衛生研修会資料より抜粋

感染症名	動物種	原因菌
気腫疽(届出伝染病)	牛、めん羊、山羊、鹿	<i>C.chauvoei</i>
悪性水腫(人獣共通)	牛、馬、豚、めん羊、ヒト	<i>C.septicum, C.novyj, C.perfringens</i> 等
クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症(人獣共通)	牛、豚、めん羊、山羊、鶏、七面鳥、ヒト	<i>C.perfringens</i> (いわゆるクロストと呼ばれているもの)
破傷風(届出伝染病、人獣共通)	すべての家畜、犬、猫、ヒト	<i>C.tetani</i>
壊疽性皮膚炎	鶏	<i>C.septicum, C.perfringens</i>
潰瘍性腸炎	うずら、鶏、七面鳥、キジ	<i>C.colinum</i>
ボツリヌス症(人獣共通)	牛、めん羊、鶏、七面鳥、家鴨	<i>C.botulinum</i>

病原性のあるクロストリジウム属菌は外毒素という病原因子を持っており、病状の進行は早く、死亡率が高いです。基本的には予防対策が重要で、牛には3種・5種混合ワクチンがありますが、適切な飼養衛生管理、飼料急変や濃厚飼料多給を避けること(特に牛)、土壌掘り起こしの注意等が有効な対策として挙げられます。

(東部家保検査課 竹中主任)

第12回全国和牛能力共進会(鹿児島全共)が開催されました

1 鹿児島全共の概要

和牛の改良の成果や飼養管理技術を競う大会が「和牛新時代 地域かがやく和牛力」をテーマに、鹿児島県で10月6日～10日の5日間にわたり開催されました。この大会は、5年に一度開催される「和牛オリンピック」ともいわれる国内最大の畜産イベントです。

種雄牛候補の若雄牛や繁殖雌牛の姿・体形の良さなどから優秀な子牛を生産する能力を審査する「種牛の部」と、枝肉の質・量を審査する「肉牛の部」から構成され、過去最多の41道府県から全9区442頭が出品されました。

また、今大会から、和牛改良の新たな方向性を示すため、肉の風味や口溶けに関する「脂肪の質」を評価する出品区（7区）や、新たな担い手の育成・確保に向け特別区として「高校・農業大学校の部」が新設されました。

2 出品牛の概要と結果

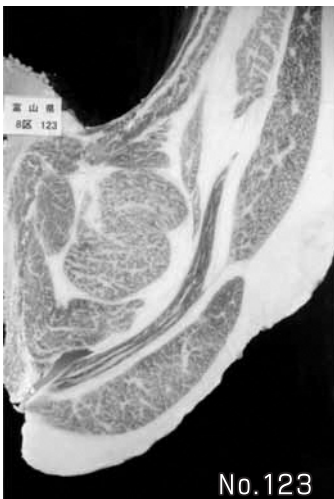
本県からは、柏慶太氏（朝日町）と（有）池多ファーム（富山市）が肉牛の部の「第8区（去勢肥育牛）」に出品しました。出品牛はいずれも、今年7月にデビューした「とやま和牛 酒粕育ち」です。

本県が参加した第8区は、全出品区で最多の39道府県から58頭が出品される最激戦区となりました。

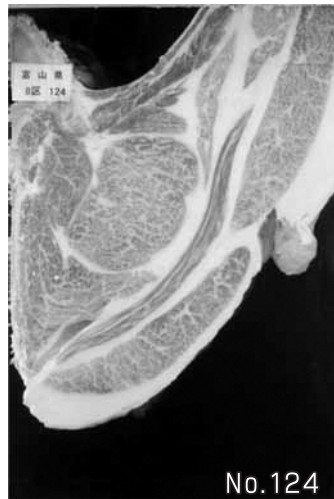
今回の出品牛は、2頭とも、生体重、枝肉重量とも十分で、BMS No. も2桁と非常に素晴らしい枝肉でした。

●富山県出品牛8区結果（去勢肥育牛 24ヶ月未満）

出品者	出品No.	種雄牛	生体重(kg)	枝重(kg)	歩留基準値	ロース芯面積(cm ²)	格付	MUFA予測値	順位
柏慶太	123	福之姫	778	505.7	72.3	62	A-5-11	54.1%	2等
池多ファーム	124	福之姫	820	530.5	74.5	74	A-5-12	52.3%	2等



No.123



No.124



開会式にて



3 5年後の北海道大会に向けて

今大会における出品牛全体のBMS No.の平均は10.9と非常にレベルが高く、24カ月齢未満でも申し分のない肉質、品質の枝肉に仕上がっており、今般の飼料価格高騰等の状況の中で、肥育期間の短縮等につながる可能性が示されたと感じます。

本県の枝肉は、肉質は素晴らしいものでしたが、さらに価値を高め、他県のブランド牛に打ち勝つためには、肉量と脂肪の質の改善は重要な課題であると感じました。

5年後を目指し、関係機関が一丸となって、さらなる高みを目指しましょう。

(農業技術課畜産振興班 高平副主幹)

令和4年度畜産優良施設等県外視察研修会を開催

東部地域及び西部地域畜産経営技術推進指導協議会では、10月13日から14日にかけて、3年ぶりに畜産優良施設等の県外視察研修会を行い、市町やJAの職員、獣医師等14名が参加して次の2施設を視察しました。

1. 佐久市堆肥製産センター（長野県佐久市臼田）

本県でも公害病が問題になっていた昭和40年代、八ヶ岳の麓に位置する佐久市臼田地区ではごみの埋め立てや化学肥料への依存による安全性への影響が問題化し、昭和53年、公害防止と生ごみの資源化による循環型農業の推進を目的に初代のセンターが、平成13年に現在の施設ができました。臼田地区は人口13,000人ほどと本県の朝日町より少し大きい程度で、生ごみ(家庭、事業系)と畜糞を混ぜて堆肥を製産しています。かつては畜糞の量が家庭生ごみを上回っていましたが、その後、畜産農家の廃業等に伴い現在は全体の3%ほどまで減少しました。堆肥は7円/kgで販売し、事業系生ごみの処理手数料として10円/kgを徴収していますが、これらの収入は年間経費およそ3,000万円の13%ほどです。築20年以上が経過し、施設は老朽化しましたが、熟練技術者がメンテナンスを繰り返しながら維持されているとのことでした。

生ごみと牛糞は40日間かけて長さが60mもある密閉、陰圧の発酵槽内で切り返されます。完成品はサラサラでにおいも少なく扱いやすいため8割以上が家庭菜園で使われます。製品の成分は窒素1.7%、リン酸0.9%、カリ1.5%と、牛糞堆肥が少ないせいかカリが低めです。発酵槽内の空気は奥行50mの大型脱臭槽に満たされた大量のゼオライト(粘土鉱物)を通過させてから排気(生物脱臭)しており、屋外でにおいは全く感じられませんでした。現在は地域外の酪農家から牛糞を集めており「家畜糞の確保が課題」と、本県からすればもったいない話でした。悪臭対策が万全で、自然豊かなこの地域にとって大変意義のある施設だと感じました。



発酵槽とパドル型攪拌装置



さらさらの完成堆肥

2. 信州富士見高原ファーム（長野県諏訪郡富士見町富士見）

南アルプス山系、入笠山の麓に位置する、国産ジビエ認証を受けた食肉処理施設で、富士見町内でくくり罠により捕獲したシカを年間約600頭処理している全国的には中規模の施設です。この地域にはイノシシが少なく、鹿(平均体重約40kg)のみを扱っており、精肉以外では、内臓をペットフードに、皮を裁縫用に販売しています。

当施設では、毛や腸内容等による食肉汚染対策のほか、すべての肉の金属探知、セシウム検査、ラベリングによるトレーサビリティなどの様々な安全対策を行っています。

ジビエは出荷量を安定して確保しづらいため、一般的にはジビエメニューを提供するチェーン店のような大口需要者の要望に応えることが困難です。一方この施設は「国産ジビエセンター」として全国の国産ジビエ認証を取得した15施設から肉を集約して大口需要者等へ流通させ、価格安定、消費拡大に貢献しており、今後のジビエの発展を牽引していく存在だと感じました。



解体施設



カット施設

国産ジビエ認証：消費者へ安全、安心なジビエを提供するため、衛生管理基準や流通規格の遵守、適切なラベル表示等に適切に取り組む食肉処理施設を農林水産省が認証するもの。

(東部家保環境課 神吉課長)

防 疫 情 報

全国の主な家畜伝染病の発生

高病原性鳥インフルエンザ（法定伝染病）

（11月4日現在）

事 例	発生日	発生場所	経営形態	飼養頭数	備 考
1	10月28日	岡山県倉敷市	採卵	約17万羽	H5N1 亜型
2	10月28日	北海道厚真町	肉用	約17万羽	〃
3	11月1日	香川県観音寺市	採卵	約4万羽	〃
4	11月4日	茨城県かすみがうら市	採卵	約100万羽	
5	11月4日	岡山県倉敷市	採卵	約51万羽	

県内の主な家畜伝染性疾病の発生

病 名	畜 種	発生日	戸 数	頭羽数	備 考
牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症	牛	9月26日	1	1	
豚ロタウイルス病	豚	10月14日	1	1	
豚丹毒（届出伝染病）	豚	9月16日、21日、22日、10月12日	4	6	と畜場発見
鶏コクシジウム病	鶏	10月7日	1	2	
山羊の捻転胃虫症	山羊	10月4日	1	1	

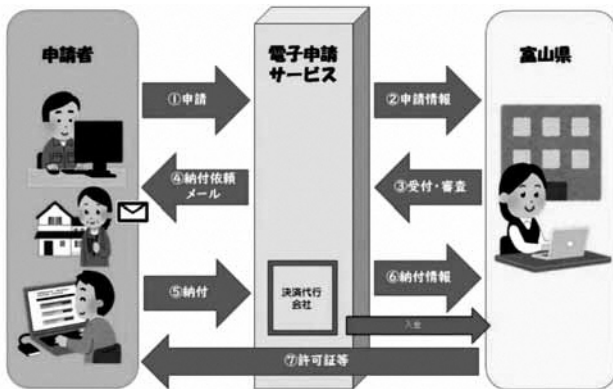
手数料の電子納付ができるようになりました —クレジットカードやPay-easyにより手数料納付が可能に—

県では、「富山県電子申請サービス」で手続きを行う際、クレジットカードやPay-easy（インターネットバンキングを利用した支払い）により手数料を納付できるようになりました。

家畜衛生関係では、「豚熱ワクチン接種」「病性鑑定家畜焼却処理」「牛海綿状脳症検査（検査済み家畜の焼却処理）」について、電子申請、電子納付が可能となっており、今後サービスを拡大する予定です。電子納付可能な申請をされる方へは、申請手続きの際に随時お知らせいたしますので、ご不明な点があれば、家畜保健衛生所の担当者にお尋ねください。

*引き続き紙の申請書による手続きや県収入証紙による納付も可能です。

【富山県電子申請サービス】<https://s.hinsei.pref.toyama.lg.jp/SdsJuminWeb/JuminLgSelect>



【電子申請から電子納付までの流れ】

- 1 「富山県電子申請サービス」で申請内容を入力、支払い方法を選択（クレジットカードまたはPay-easy）（左図）
- 2 後日、「審査完了・納付依頼」の電子メールが届くので、案内に従い、決済する。（左図の、）

（農業技術課畜産振興班 先名主任）

富山県畜産共進会（和牛子牛の部）開催される

10月20日(木)、金沢市の北陸三県家畜市場において、県畜産共進会和牛子牛の部が開催されました。出品牛47頭（去勢27頭、雌20頭）の審査の結果、南砺市の上野幸生さんの「むつき22」（雌）が優等賞1席を、小矢部市の細川敏さんの「久愛52の6」（雄）が優等賞2席を受賞しました。また、同日開催された令和4年度第4回の北陸三県和牛子牛市場では、去勢93頭、雌66頭の計159頭の取引が成立し、富山県からは去勢26頭、雌20頭の計46頭が出品されました。全体の出場頭数は、前回比プラス21頭で14%の増加となりました。平均価格は、去勢で569千円（8月市場575千円）、雌で453千円（同437千円）、全体では521千円（同521千円）でした。最高価格は去勢で852千円、雌が680千円でした。次回の開催は12月22日(木)です。



上野さんと「むつき22」

（東部家保防疫課 宮澤獣医師）

発行所 富山県東部家畜保健衛生所
〒939-3536 富山市水橋金尾新4-6
編集者 神吉 武（富山県東部家畜保健衛生所）

http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1687/
電話 (076) 479-1106 FAX (076) 479-1140